

特別講演 1

「呼吸器感染症における漢方治療のてびき」

東京女子医科大学 東洋医学研究所 所長

佐藤 弘 先生

最近マスコミで新型インフルエンザに対する治療薬の一つとして麻黄湯などの漢方薬が取り上げられるようになっている。漢方薬というと急性疾患には適さないと思っておられるかもしれませんが。しかし麻黄湯の原典である『傷寒論』は、もともと急性疾患の治療書である。感冒を漢方薬で治療すると、処方を選択が適合した場合効果は速やかであるとの印象を持っている。また感冒罹患後の遷延性咳嗽、微熱の持続例にたいしても効果を期待できる。さらに漢方治療により感冒罹患の頻度が減少する例も少なくない。細菌感染症あるいは一部のウイルス性疾患では、抗菌剤、抗ウイルス剤を使用するが、近代医薬品ではカバーできない感染症あるいはそれに関連した病態も少なくない。漢方薬を日常の臨床に導入することで、こうした病態へのアプローチも可能となる。今回の講演では、呼吸感染症における漢方治療の意義および代表的な漢方薬の実践的な使用法を述べてみたい。